

11月6日(日) 第2回 京都 働く者のセミナーに 参加しよう!

テーマ

**アベノミクスと金融破綻、
財政破綻、経済破綻**

安倍総理は、9月の臨時国会の所信表明演説で「アベノミクスを一層加速し、デフレからの脱出速度を最大限まで引き上げてまいります」と宣言しました。しかし生産力が向上すればモノの価格が下落するのは当然であって、物価が下落することは“悪”であり物価が上昇することは“善”であるなどと、なぜ言えるのでしょうか。そもそもインフレを目標とする経済政策など、働く者、労働者にとっては百害あって一利なし、生活を一層困窮させるだけのものです。

アベノミクスがもたらす金融破綻、財政破綻、そして日本経済の破綻について、労働者、働く者の立場から一緒に考えてみませんか。

デマゴギー経済政策

アベノミクスは最初からでたらめに満ちたものでした。政府・日銀が一緒になって物価をあげると言えば、物価が上がる前という需要の先食いがどんどんと起こり、経済が好循環に向かうという、風が吹けば桶屋がもうかる式のデマゴギーです。

すでに巨額の財政赤字を抱えているにもかかわらず、安倍政権は日銀に国債の“爆買”を行わせることで、

これまで同様の財政たれ流しを続けることを可能にしました。その結果、日本の財政赤字は千兆円を超えるまでに悪化しました。これは日本のGDPの約2倍にもなります。

日 / 11月6日(日)
時 / 午後1時30分～4時30分
所 / 「下京いきいき
市民活動センター」
2階 第2会議室

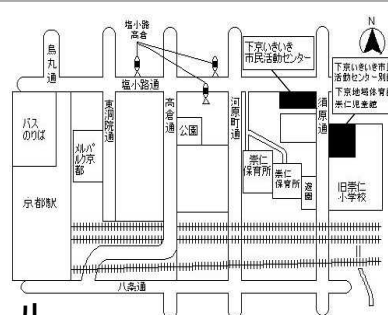
京都市下京区塩小路通河原町東入ル

(JR、地下鉄:京都駅、京阪電車:七条駅下車)

主催 / 「京都働く者のセミナー」実行委員会

連絡先 / 080-6144-3991 (平岡) まで

会場カンパ / 100円



日銀に国債等を買取らせることで市場にカネをばら撒けばインフレになるだろうというのですが、現実には、ばら撒かれたカネは新しいモノづくりのために生かされることなく、金融機関が日銀に持つ当座預金として膨らむだけでした。

そこで日銀はマイナス金利を導入してその資金が市場に出るようにと企んだのですが、今度は金融機関の収益の低下を招き、ついにはメガバンクの筆頭である三菱東京UFJ銀行が国債入札特別参加者資格を返上するというような金融機関の“反乱”まで招いたのです。

矛盾を暴露した異次元緩和の総括検証

日銀は9月21日に、これまでの異次元緩和の総括検証を発表しましたが、金融緩和から金利政策に移るとしながら、これまでのような“爆買”確約でないとしても金融緩和は続けるし、金利についてもマイナス金利の深堀をすと言いながら長期金利は10年国債をゼロ金利に維持するなど、あれもこれも、チグハグであっても何でもやるといった矛盾に満ちた方針を示しています。

これは、結局のところ、安倍政権が長期政権の企てのために財政膨張政策を実行しようとしていることに応えるために実質上の日銀の国債引き受けを継続するということとであり、短期金利についてはマイナス金利の深堀りを行うが金融機関の運用に影響を与える長期金利についてはマイナスにならないようにするということが金融資本の不満を解消しようというものでしかありません。

しかし、経済を恣意的に動かすことができるなど、思い上がりもはなはだしいとしか言いようがありません。こんな経済が続けば金融破綻、財政破綻はもちろん、誰も止めることのできない巨大インフレを誘引し、経済そのものが破綻するだけです。そして大きな被害をこうむるのが労働者、働く者なのです。

政治に労働者の声を

民進党や共産党はアベノミクスに反対だと言いますが、賃上げによる景気回復や同一労働同一賃金、長時間労働の見直し、最低賃金の引き上げ等々、その政策はアベノミクスと似たり寄ったりでしかありません。

賃上げによって景気が良くなるなら資本も喜んで応じるでしょうが、そうではないからこそ、労働者は生活防衛のために資本との闘いによって賃上げを勝ち取るしかないので、野党の連中にはこうした経済の初歩的なことすら判っていないから、安倍と同じようなことを主張しているのです。

労働者は政治の場にもっと出て行き、発言権を強めなければなりません。セミナーではこうした問題を大いに議論したいと思います。皆さんの参加をお待ちしています。

11月6日、セミナーに参加して、おおいに議論しましょう！